

# 基礎から考える刑法総論

安田拓人

## 担当編集から

本書は、「法学教室」に「刑法総論の基礎にあるもの」として連載いただいた内容を、1冊にまとめたものです。

この連載タイトルと本書の書名にうたわれている「基礎」は、“入門編”といった意味ではなく、“根本”“根底”といったものを指しています。つまり、本書は、刑法総論をひと通り学んだ読者とともに、様々な見解を根本から分析することで、重要論点について考察しようというものです。基礎理論を出発点に議論を展開し、説得力のある結論を導くという、刑法解釈の醍醐味を味わえる1冊と言えるでしょう。いま、このような連載・書籍が求められた理由については、ぜひ、本書の「はしがき」に示された、安田先生のメッセージをお読みいただきたいと思います。

書籍化にあたり、「第2章 遅すぎた構成要件実現（結果発生）と早すぎた構成要件実現（結果発生）」を加筆していただきました。安田先生曰く「学生さんから、質問がよく来る」とのことです。このテーマが選ばれました。そのほか、雑誌掲載後に著された文献や判例を踏まえて、加筆された部分も多くあります。(O)

## Point

刑法総論を学習する上での重要論点をカバー。

### 第1部 構成要件該当性

- 第1章 実行行為と因果関係
- 第2章 遅すぎた構成要件実現（結果発生）と早すぎた構成要件実現（結果発生）
- 第3章 故意と錯誤(1)
- 第4章 故意と錯誤(2)
- 第5章 不作為犯
- 第6章 過失犯

### 第2部 違法性阻却事由

- 第7章 違法性総論
- 第8章 正当防衛(1)
- 第9章 正当防衛(2)
- 第10章 正当防衛(3)
- 第11章 過剰防衛(量的過剰(事後的過剰))
- 第12章 誤想防衛(正当化事情の錯誤)
- 第13章 緊急避難

## 基礎から考える 刑法総論

安田拓人

Fundamentals of Criminal Law: General Part  
YABUDA Takuro



## 基礎に立ち戻って、 根本的に考える。

理論の沿革や国内外の判例・学説を丹念に確認しながら、刑法総論の重要論点について基礎に立ち戻って考察。読者を一段深い理解へと誘う。



詳細を見る



レベル - 用途 - 対象 -  
上級 学習 学部 LS

2024年12月発売 / 486頁 / 定価4180円(税込)  
A5判 / 並製

- 第14章 被害者の同意
- 第3部 責任阻却事由
- 第15章 責任能力
- 第16章 原因において自由な行為
- 第17章 実行行為途中からの責任能力低下
- 第4部 未遂犯
- 第18章 実行の着手
- 第19章 不能犯
- 第20章 中止犯
- 第5部 共犯
- 第21章 共同正犯  
—— 一部実行全部責任の原則の根拠
- 第22章 承継的共同正犯
- 第23章 共同正犯関係の解消
- 第24章 不作為による共犯
- 第25章 共同正犯と違法性の判断

詳細は、小社ウェブサイトの本書のページをご覧ください。

